

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	小平市立たいよう福祉センター		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月14日		～ 令和 7年 2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月14日		～ 令和 7年 2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 20
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員同士のコミュニケーションはよく取れており、園児の特性や成長段階を、職員間で共有することができている。また、職員は、園児に丁寧に関わることができている。	・クラス運営を円滑に進めるため、活動後の振り返りを毎日行っている。 ・プログラム(遊び等)が単調にならないよう、遊びの幅を広げるように工夫している。また、園児と関わる際は、言葉や動きのモデルを示すよう最大限努力している。	・令和7年度は、活動後の振り返りだけでなく、定期的なクラスごとのミーティングを増やし、その時々合ったクラス活動や個々に必要な支援が提供できるよう工夫する。 ・この間、研修の機会や内容の設定に力を入れているので、今後は更に研修内容を充実し、より質の高い療育が提供できるようにする。
2	・保護者の職員に対する信頼度が高い。また、支援内容に対しても、一定の満足度を得ている。	・保護者やご家庭に対し、双方向のやりとりになるよう、日々の園児の状況を連絡帳等を使いこまめに連絡を取り合っている。 ・保護者と同じ視点、同じ方向を見て園児と関われるよう、最低年2回の面談等を行っている。	・令和7年度は、保護者とのコミュニケーションを更に向上させるために、令和6年度に導入したシステムツールを本格的に活用する。
3	・建設から40年経つ建物であるため所々の老朽化や使い勝手の悪さは否めないが、必要な修繕等を行いつつ、職員が創意工夫を凝らし、できる限りのサービスを提供している。	・こどもの安全を第一に、老朽化している部分でのケガや事故がないよう、日々のチェックを万全に行っている。	・令和7年度においては、木造箇所の点検を業者に依頼し、危険箇所がないかのチェックを行い、ケガや事故が起きないように予防する。 ・日々の安全チェックを更に徹底する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・建物の老朽化が否めず、所々の改修、改善箇所が増えている。 ・古い構造の建物であるため、部屋の数は元より、使い勝手の悪い配置になっている。	・築40年の建物であるため、経年劣化を含む傷みが発生している。 ・近年、園児に対する個別対応が必要になる機会が多くなっているため、建物の構造が現状とあっていない。	・現時点で建て替えや大規模な改修は予定されていないため、ケガや事故を未然に防ぐため、業者による点検や職員による活動前の安全チェックを徹底する。 ・活動プログラムや専門訓練等の実施を工夫し、限りある部屋を無駄なく活用する。必要に応じて、他の施設設備を有効的に活用し、サービスの低下を予防する。
2	・職種、職階別における、業務の理解度に差が生じている。また、一部の保護者にも、情報等が行き届いていないことがある。	・療育に当たる職員は、正規職員、嘱託職員、パートタイム職員と分かれており、正規、嘱託は勤務時間がほぼ一緒であり、情報を得る時間は一律に保障されている。パートタイムの勤務は、原則として営業時間に限定されるため、サービス提供時間以外に行われる業務を知る機会がどうしても減っている。	・パートタイム職員に対し、今回行った評価のフィードバックの機会等を利用し、サービス提供時間以外に行っている業務の説明を行う。また、今後実施する家族支援や地域支援等については、適宜その実施内容や結果をわかりやすい形で伝達するようにし、職階による情報共有や提供に差が生じないようにする。
3	・他事業との兼ね合いで、解決しにくい課題を抱えている。(開所時間が短い等)	・複合施設であるため、送迎バスの利用時間が決まっている。 ・他の部署と営業時間やサービス内容が異なるため、建物内を自由に利用することができない。	・現時点で改善の見込みはない。ただし、保護者からの要望、社会の働き方の変容をにより、サービスの提供時間の変更の必要性は高まっている。数年先を見越し、関係各所との改善策の検討を始める。